

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和4年4月6日（水）
- 2 確認箇所
4号機西側（陸側遮水壁K排水路交差付近）
- 3 確認項目
陸側遮水壁測温管の温度上昇の対応状況

4 確認結果の概要

1～4号機建屋周囲に設けられている陸側遮水壁（凍土壁）の一部（K排水路交差付近の測温管150-7S）において、地中温度が0℃を超える状態が継続する事象（令和3年10月28日東京電力公表）が発生し、東京電力では、これまで、地下水の流入を抑制するための試験的な止水工事等を行いながら原因調査を実施してきた。

このうち、試験的な止水を目的に測温管150-7Sの上流側（西側）において進められていた鋼矢板設置工事が3月上旬に完了したことから現況を確認した。（図1）（前回確認日：[3月1日](#)）

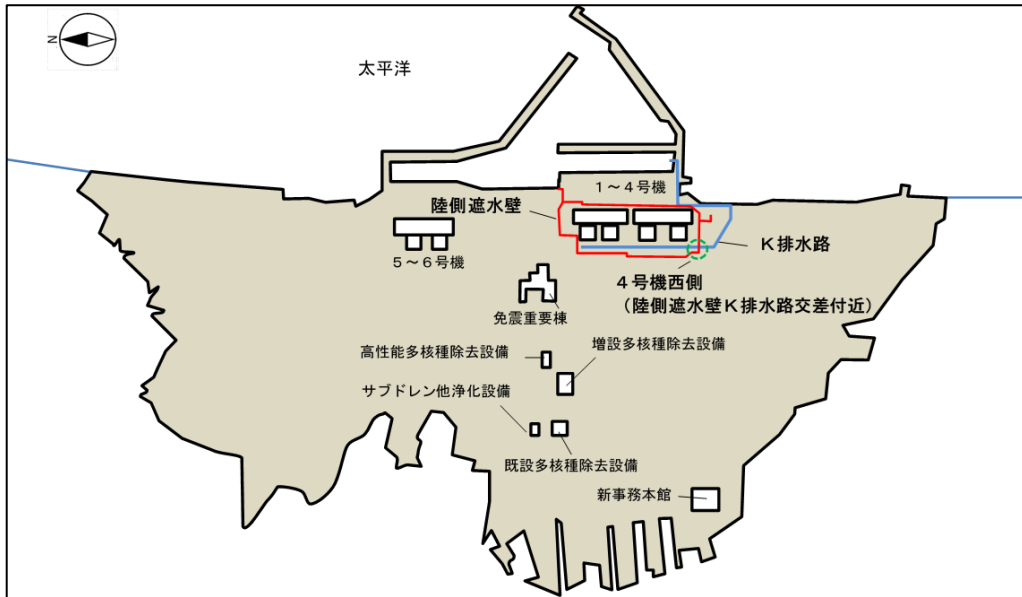
- ・止水工事のために設置されていた架台及び資機材は撤去され、測温管150-7Sの上流側（西側）に9枚の鋼矢板が設置されていた。

（写真1）（写真2）

- ・前回確認時に鋼矢板設置場所西側において進められていた共用プール建屋の屋根からの雨水を排水する仮設雨水排水管の設置が完了しており、仮設雨水排水管の流末で水温の測定を行っていた。（写真3）
- ・東京電力では、鋼矢板設置完了後の測温管150-7Sの地中温度が、3月16日の地震直後のブライン供給停止による温度上昇を除き低下傾向が継続していること、K排水路内の湧水量が低下していること及び鋼矢板を挟んだ地下水観測孔の水位差が拡大していることから、鋼矢板設置による止水効果が現れていると判断しており、今後、地中温度監視を継続するとともに、同様の温度上昇が生じる可能性も考慮して、以下の対応について検討するとしている。

①測温管150-7S周辺への凍結管の追加について、設置位置及び設置時期を検討する。

②必要と判断された場合に、未閉塞箇所（鋼矢板未設置場所（使用済燃料プール配管下（写真2-2））の止水を検討する。



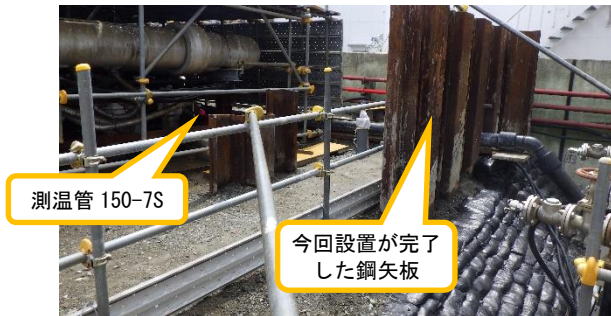
(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
鋼矢板設置場所周辺の概観①
(前回(3月1日)南東側から撮影)



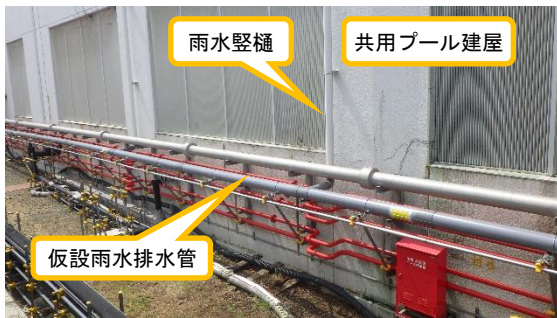
(写真1-2)
鋼矢板設置場所周辺の概観②
(今回(4月6日)南東側から撮影)



(写真2-1)
鋼矢板の設置状況①
(北西側から撮影)



(写真 2 - 2)
鋼矢板の設置状況②
(西側から撮影)



(写真 3 - 1)
仮設雨水排水管の整備状況
(北東側から撮影)



(写真 3 - 2)
仮設雨水排水管流末の状況
(南側から撮影)

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。